

令和6年度使用小学校教科用図書
に関する調査報告書

教科名 音 楽

(様式1)

教科用図書調査に関する報告書

教科	音楽
----	----

発行者 略称	発行者 番号	教科書の 記号・番号	教科書名	調査結果の概要
教出	17	音楽 103 203 303 403 503 603	小学音楽 おんがくのおくりもの 音楽のおくりもの 1 2 3 4 5 6	<ul style="list-style-type: none"> ・伝える、話し合いが各学年に入っている。 ・問いかけ提示で考える授業展開を想定している。 ・主体的・対話的で深い学びの工夫がみられる。 (6年12、13ページ「おぼろ月夜」等) ・「学習マップ」で全体を概観できる。 ・言語活動として、吹き出し表示での問いや、「学び合う音楽」コラムが設定されている。 ・全学年に「さんぽ」が、手話入りで教材化されている。 ・5年30ページ目に大震災復興コンサート写真(被災ホール)が掲載されている。 ・1年～2年では、身体表現による鑑賞を多く取り入れ、楽しく学べる。 ・5年26ページ「ハローシャイニングブルー」は、作詞者のメッセージもデジタル教材で聞くことができる。 ・「音のスケッチ」(年間3教材)は、身近な生活と関連している。 ・各題材で、「音楽のもと」を見開きに明示し、共通事項を意識して学ぶ工夫がある。 ・共通事項を題材のつながりの中で指導できるような工夫がある。 ・全学年を通じて、活動をとおして、知識技能が身につくような工夫がある。 ・5年32、33ページと6年16、17ページの聴き比べる活動は、2学年の系統性がある。 ・構成・分量は、全学年8題材で無理なく学習を進めることができる。 ・巻末資料「音楽ランド」の内容が充実している。 ・見開きで完結しているページが多い。 ・写真・書体・文字サイズ・余白が適正である。 ・色使いや挿絵が柔らかく、音楽的イメージも膨らむ。 ・文字と写真が相克せずユニバーサルデザインの視点がある。 ・我が国の伝統文化については、生活との関わりもふまえて多様な教材の工夫がみられる。

発行者 略 称	発行者 番 号	教科書の 記号・番号	教科書名	調査結果の概要
教 芸	2 7	音楽 104 204 304 404 504 604	小学生のおんがく 1 小学生の音楽 2 3 4 5 6	<ul style="list-style-type: none"> ・各題材の単元構成を<二要素三活動>で共通化し何を学ぶか、どのように学ぶかなど、児童自らが主体的対話的に授業に臨めるようにしている。 <二要素> <ul style="list-style-type: none"> ・「見つける（感受）」「考える（思考判断）」のマークが見やすい。 <三活動> <ul style="list-style-type: none"> 「歌う（歌唱）」「演奏する（器楽）」「つくる（創作）」のマークが見やすい。 ・主体的に学べるよう、演奏家によるアドバイスや合奏時のヒントを示したコラムを設けている。 ・対話的に学ぶための「活動のめあて」が示されている。 ・知識技能と思考判断表現のバランスについては、巻頭「学習マップ」で学習全体をとらえられる。 ・「がくふマスター」で、記譜の習熟を保障している。 ・言語活動では、全学年で吹き出し表示がある。 ・デジタルコンテンツは、非常に豊かで多彩である。 ・楽曲すべてのページに二次元コードがある。 ・多彩なコンテンツに簡単にアクセスでき、学校の音楽授業時だけでなく別の時間、家庭での学習などにも対応できる。教科横断的・生活関連的に学べる。 ・今日的課題として、著作権について6年で詳しく掲載されている。 ・阪神大震災と関連した「しあわせ運べるように」が掲載されている。 ・身近な生活との関連や、児童の興味関心に沿った教材を取り入れている。 ・共通事項の取扱い及び知識技能の習得は、高度で「知識重視」の内容構成となっている。 ・3年リコーダー指導において、領域的に構成されており、正確で詳細な説明がある。 ・基本を学んだ後に音楽づくりを行う構成である。 ・中学校のアルトリコーダー運指への系統性を意識している。 ・「内容」領域4表現を支える知識技能については伴奏譜と並行で「身体化」や「試し演奏」に取り組むことにより「和音や和声進行」の知識を活用レベルにまで高める意図がある。 ・音楽づくりでは、特に低学年で「わらべうた」や「遊び歌」を多く掲載、体で感じ表現する工夫がされている。 ・すべての楽曲について「一線譜」や「部分譜」、「図形譜」および歌・ことばの関連がある。 ・鑑賞の資料が多い。 ・我が国の伝統文化・郷土理解については、各学年に配置されている。

(様式2)

教科用図書調査に関する報告書

音楽

観点別評価

「◎」優れている

「○」標準的

「△」やや劣る

選定の観点	選定の視点		教出	教芸
学習指導要領との関連	1	学習指導要領に示されている音楽科の目標達成に結び付く内容になっているか。	◎	◎
	2	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた工夫がされているか。	◎	◎
	3	「知識及び技能」の習得と「思考力・判断力・表現力等」の育成をバランスよく図るための工夫がされているか。	○	○
	4	言語活動の定着を図るための配慮がなされているか。	○	◎
	5	学習への興味・関心を高めるとともに、学びを深めるために、ICT機器や二次元コードから参照できるデジタルコンテンツを適切に活用することができる配慮がなされているか。	○	◎
	6	SDGs など、今日的課題が取り上げられ、児童が興味・関心を持ち、主体的に学ぶとともに発展的な学習も行うことができる工夫がされているか。	◎	○
内容	1	表現及び鑑賞の活動を通して、音楽のよさや面白さ、美しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり、味わって聴いたりすることができる工夫がなされているか。	◎	○
	2	身の回りの音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いあるものにしようとする態度を育む配慮がなされているか。	○	◎
	3	表現及び鑑賞の活動を通して、〔共通事項〕を身に付けることができるよう、配慮がなされているか。	◎	○
	4	曲想を感じ取って歌唱表現や器楽表現を工夫し自分の思いや意図をもって歌ったり、楽器を演奏したりする活動を支える知識や技能を身に付けることができる工夫がなされているか。	◎	◎
	5	音楽づくりについては、様々な音とかかわり、音の面白さに気付いたり、その響きや組合せを楽しんだりしながら、様々な発想をもって音遊びをしたり、即興的に表現したりすることができる工夫がなされているか。	○	◎
	6	鑑賞については、曲想や音楽の構造との関わり合いを感じ取ったり、楽曲の特徴や演奏のよさを見い出したりすることができる工夫がなされているか。	◎	◎
	7	和楽器を含む我が国や郷土の音楽の学習を通して、我が国や郷土の音楽に親しみ、そのよさを感じ取れるような工夫がなされているか。	◎	○
構成・分量	1	内容の量と学習時間が適切に配当されているか。	○	△
	2	児童の発達段階に即し、系統的、発展的に構成されているか。	◎	○
表記・表現	1	表記や表現について、文書や挿絵、写真等の使用が適切であるか。	◎	○
	2	文字の大きさ、字間、行間などは適切であるか。	◎	○
	3	ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、色の使用、紙面の構成などについて、配慮されているか。	◎	△